

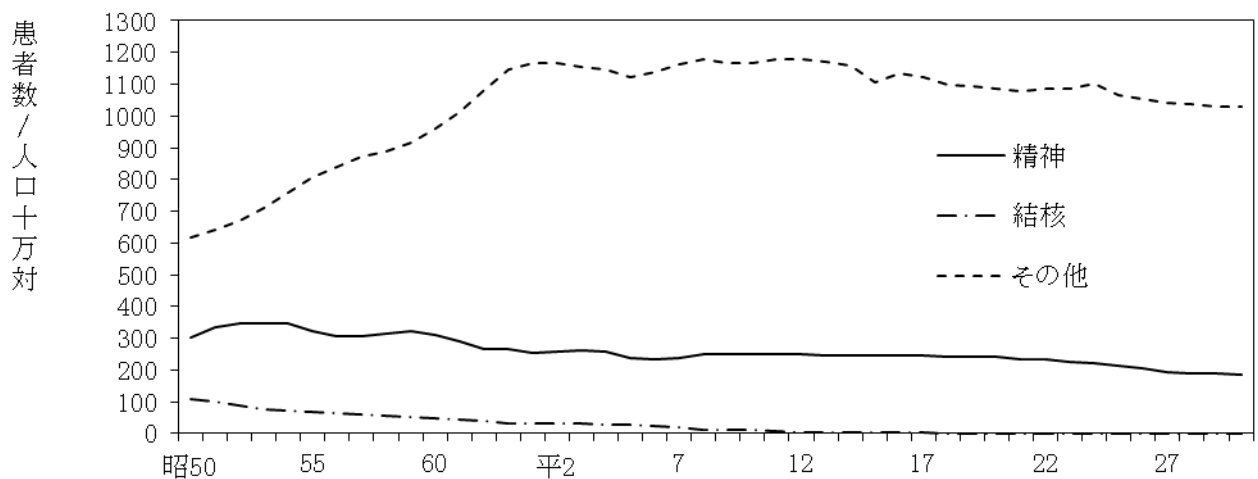
病院報告の概況

(1) 在院患者延数

令和元年中の京都市内の病院における在院患者延数は6,431,117人で、前年に比べ76,212人（1.1％）減少した。年次推移をみると、昭和45年以降増加を続けていた在院患者延数は、平成元年をピークに減少傾向にあり、ここ数年は増減を繰り返している。なお、全国では前年より1.0％の減少となっている（図1）。

病床の種類別では、精神病床が2.1％、その他の病床が0.9％減少した。

図1 一日平均在院患者数(人口10万対)の年次推移



(2) 新入院・退院患者数

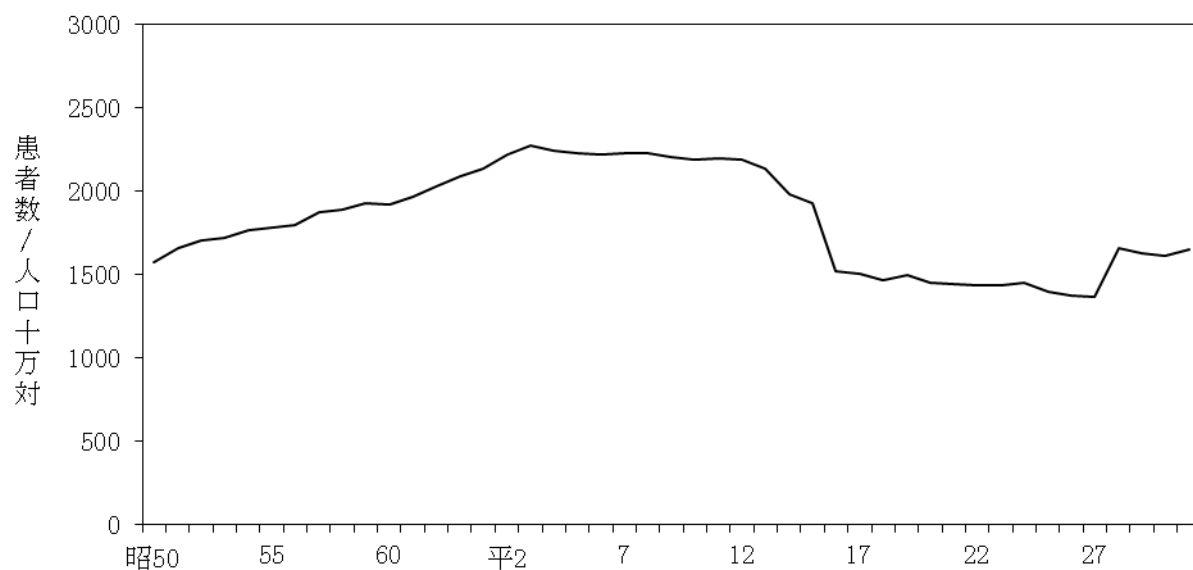
令和元年中の京都市内の病院における新入院患者数は242,514人で、前年より1.0％増加（全国0.7％増加）した。また、退院患者数は242,920人で、前年より1.1％増加（全国0.6％増加）した。

一日平均では、新入院患者数が664人、退院患者数が665人であった。

(3) 外来患者数

令和元年中の京都市内の病院における外来患者数は6,935,997人（一日平均19,002人）で、前年より1.5％減少（全国0.7％減少）している（図2）。

図2 一日平均外来患者数(人口10万対)の年次推移



(4) 病床利用率

令和元年中の京都市内の病院における病床利用率は79.2%（全国80.5%）で、横ばいであった（図3）。

病床の種類別では、前年に比べて精神病床は0.3ポイント増加し、結核病床は0.1ポイント増加し、感染症病床は0%で横ばい、その他の病床は0.2ポイント減少した（図4）。

図3 病床利用率の年次推移

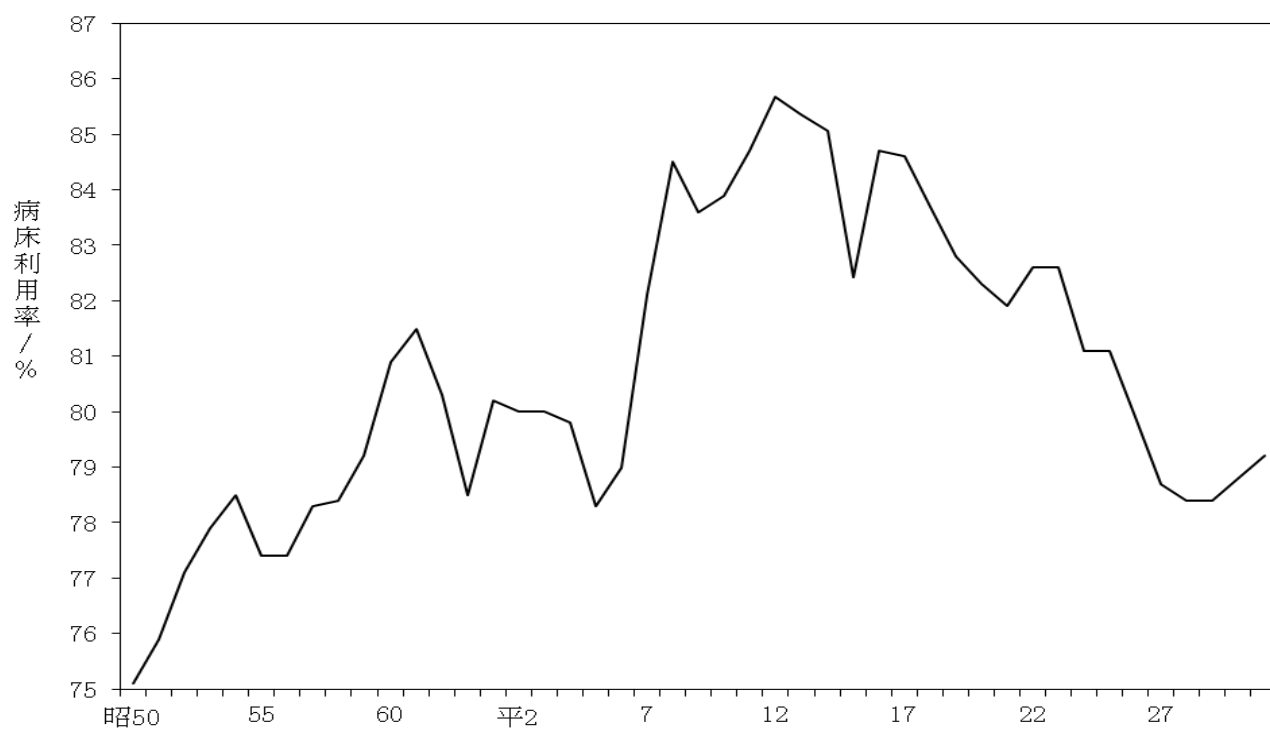
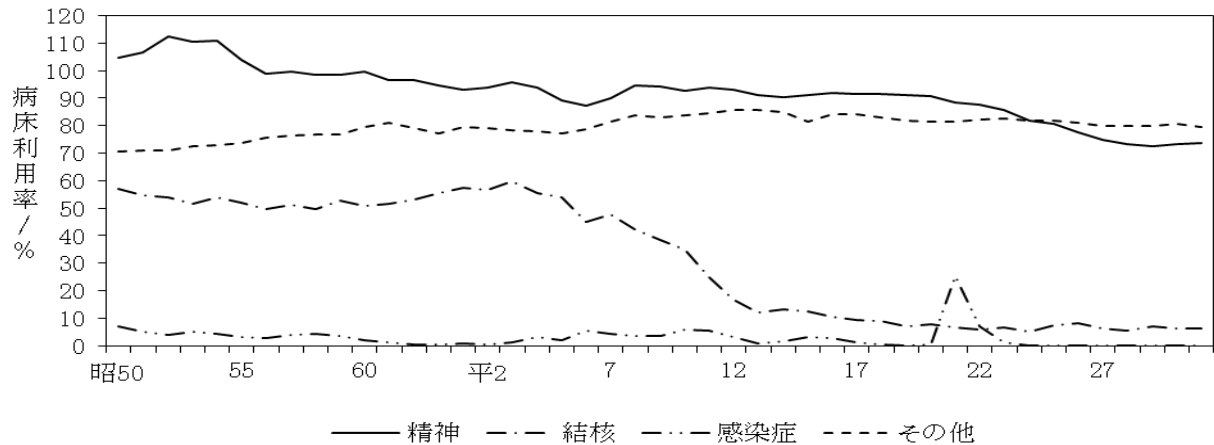


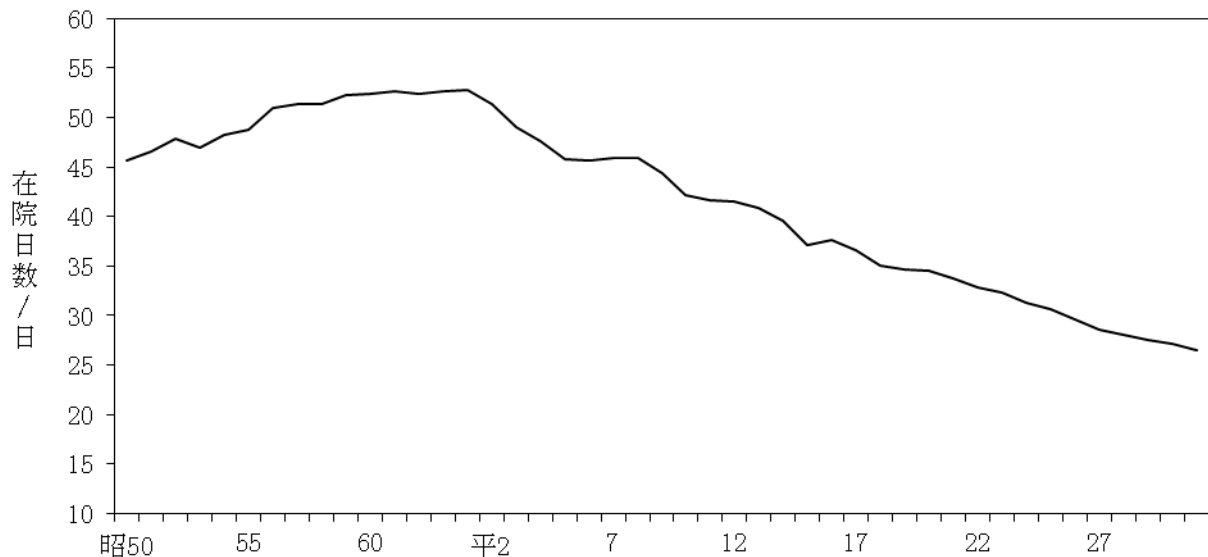
図4 病床種類別病床利用率の年次推移



(5) 平均在院日数

令和元年中の京都市内の病院における平均在院日数は26.5日（全国27.3日）で、前年より0.6日短くなっている。年次推移では、平成元年までは長くなる傾向にあったが、平成2年以降は、平成7年及び平成16年を除いて前年より短くなっている（図5）。

図5 平均在院日数の年次推移



病床の種類別では、精神病床が291.6日（全国299.3日）、結核病床が48.7日（全国64.6日）、感染症病床が0日（全国8.5日）となっている（図6）。

図6 病床種類別平均在院日数の年次推移

